

# 「言語活動を通して」

## 資質・能力を育成する 外国語授業のポイント

必然性  
目的意識

ほんもの

相手意識

コミュニケーション  
の意義や楽しさ

言語活動中心の授業の  
ポイントを確認しましょう！

岡山県総合教育センター



# Q1 そもそも「言語活動」って何？



「言語活動を通して」とよく聞かれますが、英語を使った活動は全て言語活動ですね？発音練習やパターンプラクティス、歌を歌うなどの活動なら、普段の授業でやっています。

「言語活動」というのは、「実際に英語を使用して互いの考えや気持ちを伝え合う」活動のことです。自分の本当の考えや気持ちがあるかどうかポイントです。どんな活動なのか詳しく見ていきましょう。



## 言語活動とは

中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 外国語編 p.85

言語活動は、「実際に英語を使用して互いの考えや気持ちを伝え合うなど」の活動を基本とする。

小学校外国語活動・外国語研修ガイドブック p.23

(前略)言語活動は、「実際に英語を用いて互いの考えや気持ちを伝え合う」活動を意味する。  
(中略)例えば、発音練習や歌、英語の文字を機械的に書く活動は、言語活動ではなく、練習である。練習は、言語活動を成立させるために重要であるが、練習だけで終わることのないように留意する必要がある。

学習指導要領や研修ガイドブックには、このように書いてあります。これらを踏まえて、学習指導要領(中学校外国語科)の目標を確認すると、なぜ「言語活動を通して」なのかがわかります。



## 学習指導要領 中学校外国語科の目標

外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、簡単な情報や考えなどを理解したり表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどを理解するとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けるようにする。
- (2) コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で簡単な情報や考えなどを理解したり、これらを活用して表現したり伝え合ったりすることができる力を養う。
- (3) 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。

## POINT



目標が「コミュニケーションを図る資質・能力の育成」だから、機械的に練習を重ねるだけでなく、自分の考えや気持ちを伝える言語活動が重要なんです。

コミュニケーションを図る資質・能力を育成するために、言語活動において、どのように目的・場面・状況を設定するのが鍵となります。



## Q2 目的・場面・状況はどのように設定するの？



教科書の単元の終わりに言語活動が設定されていますが、自分事になりやすく、目的・場面・状況が子どもたちにとってリアルではないと思いながら、そのままの形でしてしまうことが多いです。どのように設定したらよいですか。

単元で育成を目指す資質・能力を決め、その資質・能力にふさわしく、単元全体を見通した言語活動を設定しましょう。その際、相手意識や目的意識のある活動にすることが大切です。ポイントを確認しましょう。



子どもたちにとって、**必然性のある具体的な場面設定**の中で行き、「誰に」「何のために」という**「相手意識」**や**「目的意識」**をもって活動できるようにすることが大切です。**「ほんもの」の設定**でなければ、子どもたちが実際に英語を用いて活動し、**コミュニケーションの楽しさや意義**を感じることにつながりません。

具体的な目的・場面・状況の設定に応じて、内容や表現、伝え方を子どもたち自身が考えられるようにすることが大切です。

### 💡 目的・場面・状況を設定する際の4つのキーワード 💡

必然性・目的意識

相手意識

ほんもの

コミュニケーションの意義や楽しさ

参考

なるほど! 小学校外国語① 言語活動

<https://youtu.be/LtCjrVFOsmg?feature=shared>



### POINT



子どもたちが「伝えたい」「理解したい」などと、コミュニケーションを図りたい気持ちになるような言語活動を設定する必要があることがわかりました。

ところで、単元末の言語活動までは、文法や語彙、本文読解などを中心に指導すればいいですか？単元末の言語活動で話したり書いたりするときは、それらの言語材料を必ず使わないといけませんか。

単元の途中にも目的・場面・状況のある言語活動を行い、その中で**必要感をもって言語材料を習得できるように**します。それらの言語活動を**単元末の言語活動につながるように計画**していくことがポイントです。

また、言語活動では、具体的な目的・場面・状況の設定に応じて、内容や表現、伝え方を**子どもたち自身が考えられるように**することが大切です。既習の言語材料を必要に応じて活用しながら、互いの考えや気持ちを伝え合える仕掛けをしましょう。



### Q3 目的・場面・状況が具体的だと、どう変わるの？



目的・場面・状況が具体的で明確になると、子どもたちの思考や表現がどのように変わるのか、実際の授業例で教えてください。

話すこと(発表)の例で見てみましょう。

例えば、「実際に、来年の4月に△△市を訪れる〇〇さんに向けて、△△市の魅力を伝える」という『ほんもの』の相手や状況を設定することで、子どもたちは**コミュニケーションの意義や楽しさを実感しながら、目的意識・相手意識をもって**、言語活動に取り組むことができます。



#### 比較表現を扱う単元における例

before

この単元で学習した比較級や最上級を使って、△△市の魅力を伝えましょう。

I recommend ○○ Temple. It is more popular than ×× Temple. ○○ Temple is the oldest temple in our city.



これ、なんのためにするの？  
あーどうしよう…  
日本らしい寺を紹介しようか。  
比較級ってmoreだけ。  
とにかく最近習った文で言え  
そうなことを言おう。

after

来年の4月にALTの家族の●●さんが△△市に遊びに来るそうです。△△市のおすすめを考えて伝えましょう。

ビデオレターで得た●●さん情報

- ・アメリカ出身
- ・23歳
- ・スイーツが好き
- ・趣味は登山
- ・大学で植物の研究をしていた

You should visit Mt.○○. According to my research, ninety percent of our classmates think the cherry blossoms of Mt.○○ are the most beautiful in △△ city. Every April, I climb Mt.○○ and enjoy the cherry blossoms. You can also see various plants there.



よーし。●●さんに△△市で楽しい思い出を作ってもらおう。  
ビデオレターで、植物の研究をしていたと言っていたし、せっかく4月に来るのだから桜の名所を楽しんでもらうのはどうだろう。ひとまずクラスみんなにアンケートをして、おすすめの名所を聞いてみよう。

#### POINT

目的・場面・状況が具体的で明確になると、表現内容が充実しますね。『ほんもの』の設定だから、相手意識をもって、喜んでもらいたいと張り切っているのもいいですね。

子どもたちは、目の前の活動に一生懸命になると目的・場面・状況を忘れてしまいがちです。**常に目的・場面・状況に立ち返る**ことができるようにすることが大切です。

#### 普段行っている言語活動を振り返りましょう

- 教材(教科書)の言語活動例が児童・生徒の実態に合っているか確かめていますか。
- 相手の詳細などから、児童・生徒が相手意識をもてるような仕掛けがありますか。
- 児童・生徒自身が「やってみたい」と思える設定になっていますか。
- 言語活動で使用する言語材料を明示していませんか。

▲「この表現を使って話しましょう」と指示する。 ▲やり取りのパターンを板書等で示す。



# 授業実践 (協力校 津山市立津山西中学校 2年生)

## 内容のまとめ 「話すこと(発表)」イ 言語活動 「ALTの家族に津山の魅力を伝えるビデオレターを送る」

1 単元名 Unit 6 Research Your Topic (NEW HORIZON English Course 2 東京書籍)

2 単元の目標

ALTの家族に津山の魅力を知ってもらうために、自分が調べた津山の魅力について、事実や自分の考え、気持ちなどを簡単な語句や文を用いてまとまりのある内容を話すことができる。

3 単元の評価規準(「話すこと(発表)」の評価規準)

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・比較表現を用いた文の特徴やまじりを理解している。 ・津山の魅力について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、比較表現などの簡単な語句や文を用いて、話す技能を身に付けている。	ALTの家族に津山の魅力を知ってもらうために、自分が調べた津山の魅力について、事実や自分の考え、気持ちなどを簡単な語句や文を用いてまとまりのある内容を話している。	ALTの家族に津山の魅力を知ってもらうために、自分が調べた津山の魅力について、事実や自分の考え、気持ちなどを簡単な語句や文を用いてまとまりのある内容を話そうとしている。

4 指導と評価の計画(全9時間)

次時	ねらい(■)・主な言語活動等(丸数字)	評価の観点			備考
		知	思	態	
一 1	<ul style="list-style-type: none"> <li>■単元の目標を理解する。</li> <li>■ALTの家族のビデオレターを見て、津山の魅力を伝えるために必要となるALTの家族の情報を得るために質問をする。</li> <li>①Point of View “How can we make a good presentation?”に対する考えを書く。</li> <li>②ALTの家族からのビデオレターを見て、家族の状況や思いを知る。</li> <li>③単元の目標を知り、自己目標を設定する。</li> <li>④ビデオレターの内容をもとに質問を考え、質問動画を撮影する。</li> </ul>				・活動で語句の定着を図る。
二 1	<ul style="list-style-type: none"> <li>■教科書本文(Scene①②)の概要を捉える。</li> <li>①教科書を読んで概要を捉える。</li> <li>②教科書の内容理解を通して、比較級と最上級の特徴や使い方を知る。</li> <li>③教科書本文の中で、アンケート結果を伝える時に引用できそうな表現を捉える。</li> </ul>				・活動で単元に関連するTopicでSmall Talkを行う。
二 2	<ul style="list-style-type: none"> <li>■クラスメートに向けて、津山の魅力に関するアンケートを作成する。</li> <li>①ALTの家族からの返信をもとに、自分が伝えたい津山の魅力に関する質問を考え、アンケートをフォームで作成する。</li> <li>②クラスメートが作成したアンケートフォームに回答する。</li> </ul>				
三 1	<ul style="list-style-type: none"> <li>■教科書(Read and Think①)の概要を捉える。</li> <li>①教科書を読んで概要を捉える。</li> <li>②教科書の内容理解を通して、better/bestの使い方を理解する。</li> <li>③教科書本文の中で、調査結果を分かりやすく伝える時に引用できそうな表現を捉える。</li> </ul>				・正確な発音等の定着を図るため、家庭学習として、デジタル教科書やQRコードを用い、教科書本文の音読練習を課す。特に
三 2	<ul style="list-style-type: none"> <li>■アンケート結果や調べた情報、自分の考えや気持ちなどを書き出す。</li> <li>①ALTの家族からのビデオレターを再度視聴し、目的・場面・状況を再確認する。</li> <li>②実際のアンケート結果を集計したり、不足している情報を調べたりする。</li> <li>③伝えたい情報や自分の考え、気持ち等を構想する。</li> <li>④伝える順番や大筋、展開を考え、発表メモを作る。</li> </ul>				
三 3(本時)	<ul style="list-style-type: none"> <li>■津山の魅力について、まとまりのある発表内容を考え、工夫を重ねながら話す。</li> <li>①前時で作成した発表メモをもとに、内容や英語表現、伝え方を工夫する。</li> <li>②ペアで発表の練習を繰り返ししながら、新たな英語表現を獲得したり、内容を深めたりする。</li> <li>③発表の様子を録画し、分かりづらい英語表現を確認して発表メモを加筆修正したり、表情や間の取り方などを調整したりする。</li> </ul>				Read and Think ①は発表のモデルになるため、重点的に扱う。
四 1	<ul style="list-style-type: none"> <li>■発表内容をより良いものに改善する。</li> <li>①前時で作成した発表内容を共有し、ポイントを押さえている部分に注目する。</li> <li>②発表内容を見直し、修正したものをういて練習する。</li> <li>■教科書(Read and Think②)の概要を捉える。</li> <li>①教科書を読んで概要を捉え、内容理解を通して、同等比較(as~as)の使い方を知る。</li> <li>②教科書本文の中で、他者の発表に対するコメントとして、使えそうな表現を捉える。</li> </ul>				
四 2	<ul style="list-style-type: none"> <li>■発表を聞いて、フィードバックを書く。</li> <li>①三次3時以降、帯活動や家庭学習等で修正したり練習したりしたことを生かし、班の中で発表する。</li> <li>②聞き手は教科書などを参考にしながら、フィードバックシートにコメントを書く。</li> <li>③コメントの内容を全体で共有し、クラスメートから学んだことや自己の気づきなどを記録する。</li> </ul>				記録に残す評価は単元末に行っています。ただし、ねらいに即して生徒の活動の状況を確認に見届けて指導に生かすことは毎時間必ず行います。
四 3	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ALTの家族に津山の魅力を知ってもらうための動画を撮る。</li> <li>①前時での学びや気づきをもとに発表メモやスライドを加筆修正する。</li> <li>②ALTの家族へのビデオレターを撮影する。</li> <li>③Point of View “How can we make a good presentation?”に対する考えを書き、一次1時からの変容を確認する。</li> </ul>	○	○	○	
後日	ペーパーテスト(他の領域も含めた評価)	○	○	○	

### 目的・場面・状況の設定

実際に津山市を訪れる予定のALTの甥と姪に、津山の魅力を伝えるビデオレターを作成するという言語活動を設定することで、生徒は自分が本当におすすめしたい内容を考えて表現することができる。

### 言語活動の見通し

導入場面で、ALTの甥と姪からのビデオレターを視聴することで、相手を知り、単元末の言語活動の見通しをもつことができる。  
ビデオレターの視聴後、追加質問を考慮することで、より相手に配慮したり、ビデオレターの作成を自分事として、主体的に活動に取り組んだりすることができる。

### 教科書と言語活動をつなぐ

【言語材料(語句や文法)の学習→本文読解】という流れではなく、本文の概要を把握する中でそれらの使用場面や意味を理解する。それにより、必要感をもって言語材料を学ぶことができる。

学習者用デジタル教科書等を活用し、教科書本文に印を付けたり、端末上の付箋に気づきを書いて貼り付けたりすることで、単元末の言語活動に向けて、大切だと思ふポイントや自身の発表等に生かしたいと思ふ内容や語句・表現を蓄積することができる。

### メモ等を用いての発表

話すこと(発表)では、【原稿作成→練習→発表】という流れではなく、ブレインストーミングで構想を膨らませた後に、マッピングやメモ等で思考や情報を整理することで、それをもとに話すことができる。

### 個別最適な学びと協働的な学び

家庭学習での個別最適な学びとして、デジタル教科書等で音声を繰り返し聞いたり、音読練習したりすることで、授業における言語活動に生かすことができる。

ペア、グループ等の学習形態で多くのクラスメートとの協働的な学びを通して、他者からの学びや気づきを自身の発表に生かすことができる。

### 評価と学習改善

単元末の言語活動では、事前に教師と生徒で共有しているルーブリックをもとに評価する。

生徒はルーブリックをもとに自分の発表内容を改善していくことができる。また、評価をもとに、この単元だけでなく、学期末のパフォーマンステストや今後の英語学習に生かすことができる。



# 本時の流れ

## 6 本時案(第三次 第3時)

### (1) 本時の目標

ALTの家族に津山の魅力を知ってもらうために、クラスメートへのアンケートの結果や調べたこと、自分の考え、気持ちなどを整理して、まとまりのある発表内容を考え、内容や英語表現、伝え方に工夫を重ねながら話すことができる。  
【思考力・判断力・表現力等】

### (2) 展開

学習活動	教師の指導・支援	評価規準及び評価方法
1. 津山の魅力をテーマにやり取りをする。	○What is good about Tsuyama?をテーマに教師と生徒でやり取りする。 ○1分間、同じテーマで、生徒同士で考えを伝え合わせる。 ○良いやり取りやつまずきを共有することで、自身のやり取りを活かせるようにする。	動画① 導入
2. 本時の目標を知る。	Goal:津山の魅力を伝えるために、NamiとRanにとってわかりやすいビデオレターになるように、内容や英語表現、伝え方に工夫を重ね、話すことができる。	
3. 前時の発表メモをもとにアンケート結果や自分の考え、気持ちなどを整理する。	○ビデオレターへの返信の動画を撮影するため、まとまりのある内容を話す必要があることを確認する。 ○限られた時間でまとまりのある内容を話したり、津山の魅力を十分に伝えたりするために、必要なポイントを確認する。 ○教科書の中で、自分が活用するために線を引いた所を見返すように促す。 ○机間指導を行い、活動が停滞している生徒には、調べ方を示したり、アドバイスをしたりする。 ○個人で、発表内容を声に出して確認させる。	動画② 中間指導
4. ペアで発表の練習をする。	○発表を聞くときの視点を確認することで、発表に対する質問や感想、アドバイス等を伝えたり、自分の発表を活かせることを学んだりできるようにする。 ○机間指導を行い、活動が停滞しているペアにはアドバイスを促す。 ○ペアを替えて発表を繰り返すことで、他の生徒からの多くの学びを活かせるようにする。 ○机間指導で、「言語面」「内容面」において、全体で共有したい生徒を見つけておく。	
5. 全体で共有する。	○言語面において、全体で共有すべきつまずき等がある場合は、どんな表現ができそうかを考えさせる。 ○模範となる内容等があれば称揚することで、自分の発表内容に取り入れられそうなどころはないか考えさせる。 ○教科書等の表現を参考にしている場合は、活用の仕方を共有する。 ○全体での共有を受けて、修正の必要があれば、修正させる。	
6. ペアで発表の様子を録画し、アドバイスし合う。	○発表の動画を見て、わかりにくい表現や、聞き取りにくい発音はないか確認したり、より充実した内容にするためにはどうしたらいいのかをアドバイスし合ったりさせる。 ○表情や話す速さ、間の取り方などを確認し、より伝わりやすい発表になるように調整する。	津山の魅力が伝わり、まとまりのある内容にするためのポイントを押さえ、アンケート結果や自分の考え、気持ちなどを整理し、まとまりのある内容を考え、工夫しながら話すことができる。 【思・判・表】 (発表メモ・観察・動画)
7. 振り返りシートを記入する。	○気づいたことや、クラスメートからの学びを記録するように促す。 ○次回は本時の学びを活かし、より良い発表内容になるように発表メモを改善していくことを予告する。	

## 指導のポイント

導入場面では、単元のゴールに繋がる活動等を計画的に行う。  
反復練習や授業の雰囲気づくりの  
みを目的としないように留意する。

生徒自身が本時の課題を自分事として捉えられるように工夫する。

自分で考え、表現する時間は、学びを生徒に委ねる。

(例)  
教科書やデジタル教科書、前時までに学習した教材・動画を活用し、内容を考える。先生やクラスメートに尋ねる。インターネットや辞書で調べる。個人で練習する。

中間指導(評価)では、「言語面」の正確さを高め、「内容面」の適切さを深める。  
生徒とのやり取りの中で、生徒自身が気づいたり考えたりできるように教師がマネジメントする。

※『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料 p.54-55参照

1人1台端末を活用し、自分自身の発表の様子を確認・調整できるようにする。

学習内容と関連付けて振り返ることで、本時の学びをメタ認知できるようにする。

本時で育成を目指す資質・能力を明確にし、ねらいを達成している生徒の姿を具体的にイメージしましょう。そして、全員がB基準に到達できるような手立てを考え、授業を行いましょ。



### ◎「おおむね満足できる」状況(B)と判断する生徒の姿の例

津山の魅力が伝わり、まとまりのある内容にするためのポイントを押さえ、クラスメートへのアンケート結果や調べたこと、自分の考え、気持ちなどを整理し、まとまりのある発表内容を考え、内容や英語表現、伝え方に工夫を重ね、話すことができる。【思考・判断・表現】

例:「文と文のつながり」「伝える内容を絞る」「自分の考えや気持ちを入れる」等の観点から工夫を重ねて話している。

## 実際の授業の様子を動画で見てみましょう

### 授業実践動画

令和5年度授業改善研修会(津山市立津山西中学校)

「言語活動を通して」資質・能力を育成する  
外国語授業のポイント

岡山県総合教育センター

動画①

導入

ゴールに関連した  
テーマ設定

動画②

中間指導

言語面・内容面で  
改善を促す

動画③

端末活用

自己調整に  
生かす

## ○授業動画へのリンク

<https://www4.edu-ctr.pref.okayama.jp/>



## Q4 パフォーマンステストの評価はどうするの？



「話すこと」と「書くこと」の領域では、パフォーマンステストをしています。その際、表Aのようなルーブリックを子どもたちと共有していますが、どうでしょうか？

ルーブリック評価表があると、採点の基準が明確になり、公正な評価につながりますね。共有することで、子どもたちは自分の表現を見直すことができます。しかし、このルーブリックには気になるところがあります。色を付けてみました。



### ルーブリックを活用した「話すこと(発表)」のパフォーマンス評価

表A

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
a	ほぼ誤りのない正しい英文で話すことができる。 比較表現の文を正しく使っている。① According to~, As a result of~などの表現を効果的に使っている。	伝えたい内容を整理し、△△市の魅力について、事実や自分の考え、気持ちなどを、10文以上で伝えている。 (内容の例)おすすめの理由、季節、メニュー、そこでできること、見られるもの、歴史、ゆかりの人物、感想、アンケートの結果	伝えたい内容を整理し、△△市の魅力について、事実や自分の考え、気持ちなどを、10文以上で伝えようとしている。 アイコンタクトやジェスチャーができており、表情や姿勢がよい。③
b	誤りがあるが、コミュニケーションに支障のない程度の英文を用いて話すことができる。 比較表現の文を使っている。	伝えたい内容を整理し、△△市の魅力について、事実や自分の考え、気持ちなどを7~9文程度で伝えている。②	伝えたい内容を整理し、△△市の魅力について、事実や自分の考え、気持ちなどを7~9文程度で伝えようとしている。 前を見て話そうとしている。
c	「b」を満たしていない	「b」を満たしていない	「b」を満たしていない

①言語材料や内容を具体的に示すのは、教師の想定している答えを子どもたちに示すことになってしまいます。②文の数の多さは内容の適切さと直接的には結びつきません。③ジェスチャーなどの非言語的要素は、目的・場面・状況に応じて、相手に配慮しながら内容を伝えようとするときにふさわしい態度として現れるものなので、「伝えようとしている」に含めて考えることができます。



表B

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
a	ほぼ誤りのない正しい英文で話すことができる。	伝えたい内容を整理し、△△市の魅力について、事実や自分の考え、気持ちなどを、相手意識をもって、詳しく伝えている。	伝えたい内容を整理し、△△市の魅力について、事実や自分の考え、気持ちなどを、相手意識をもって、詳しく伝えようとしている。
b	誤りがあるが、コミュニケーションに支障のない程度の英文を用いて話すことができる。	伝えたい内容を整理し、△△市の魅力について、事実や自分の考え、気持ちなどを伝えている。	伝えたい内容を整理し、△△市の魅力について、事実や自分の考え、気持ちなどを伝えようとしている。
c	「b」を満たしていない	「b」を満たしていない	「b」を満たしていない

※「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料【中学校 外国語】を基に作成

## POINT



教師が具体的に提示するのではなく、表Bのように、子どもたち自身が考えたり、気づいたりすることができるようにするといいいですね。

授業では、子ども同士で協働的な学びができる時間を設定したり、中間指導を行ったりするなど、**発達段階や子どもたちの実態に応じて、マネジメント**していきましょう。



# もっと外国語教育について知りたい!



言語活動を通して資質・能力を育成する授業のイメージがもててきました。具体的な授業実践や、ICT端末の活用事例など、外国語教育についてもっと学びたいです!

素晴らしいですね。mextchannel(文部科学省のYouTubeチャンネル)にはたくさんの実践事例があります。オンデマンド形式だから、見たい時に視聴できますよ。



## mextchannel

<https://www.youtube.com/mextchannel>

外国語教育はこう変わる!



中学校外国語の動画だけではなく、小学校外国語の動画を見ることで「言語活動を通して」の具体的なイメージが一段とリアルにつかめた気がします!

いいところに気が付きましたね。小学校外国語を理解すると、小学校の学びを活かした授業実践につながります。小中連携も大切ですね。



## あなたの中学校区の小中連携について振り返りましょう

- 学習指導要領における小学校外国語科と中学校外国語科の共通点と相違点を知っていますか。
  - 小学校外国語科の教材(教科書)の内容を知っていますか。
  - 中学校区でお互いに授業参観をする機会がありますか。
  - 中学校1年生(接続期)の授業では、小学校での学びを踏まえていますか。
- ↓
- 連携したカリキュラム(CAN-DOリストの作成・共有)をもとに中学校区で授業を実践していますか。

チェック

参考

外国語教育における小中連携 必要性和ポイント



[https://youtu.be/\\_VNF5iJiLuo?feature=shared](https://youtu.be/_VNF5iJiLuo?feature=shared)



## 最後に...

外国語でコミュニケーションを取りたい相手がいるから、外国語を学ぼうという意欲をもつことができます。言語活動を授業の中心に据えることで、子どもたちが自ら学ぼうとする態度につなげたいですね。



## 外国語教育お役立ちリンク

・国立教育政策研究所  
<https://www.nier.go.jp/>

指導と評価の一体化



・教職員支援機構  
<https://www.nits.go.jp/>

NITS 動画教材



## mextchannel

1人1台端末で学校が変わる



デジタル教科書 言語活動



<https://www.youtube.com/mextchannel>

